

ベストクラス選定理由書

作成者：樽井翔一、角至真緒、中村あすか、出口和貴、須田康之、内海友加利、梅本優菜

科目名称 : 子ども理解と学級経営の心理学 (昼間クラス)		(担当教員名 : 秋光 恵子)
課 程 : 大学院 (修士)	開講時期 : 後期	
授業形態 : 講義	授業規模 : 31人以上	
インタビュー対象教員名 : 秋光 恵子 (実施日時 : 令和4年8月5日(金) 13:30~14:30 ; 実施場所 : 図書館会議室)		
インタビュー対象受講者名 : 藤元 麻衣 (実施日時 : 令和4年8月5日(金) 13:30~14:30 ; 実施場所 : 図書館会議室)		
<p>子ども理解と学級経営の心理学の授業のねらいは、心理学を通して、人が人を見ることの偏りやくせを理解し、教員のものの見方の偏りが誰にでも起こっていることを理解し、自分らしくクラスを作っていくためにどうすべきかを学ぶことである。</p> <p>この授業をベストクラス候補とした理由として、現場で活用したいと思える学びがたくさんあったというコメントが授業評価で多く寄せられていたことが挙げられる。</p> <p>この授業は、心理学的な研究を紹介しながら、心理学の面白さを伝え、受講生それぞれが自分の中で自分が小さかった頃の経験や教員としての経験を照らし合わせて落とし込めるようにされている。本学の大学院の学生は、経験に裏付けが欲しいという方が多い。経験の裏付けを確かめる方法は様々であるが、心理学の研究成果は、実践と照らし合わせることでできるツールである。実際にインタビューした中でも、「学校現場で心理学のことをあまり知らずに授業をしていた時にやってよかったと思うことがあった。実際に『子ども理解と学級経営の心理学』の授業を通して、学校現場でしていたことが大切なことであったと確証を得ることができ、自信になったり、気づきがあったりしたので、今後、現場に戻った時には、そのエビデンスを理解したうえで活用していきたいと思った。」という話を聞いた。</p> <p>また、オンライン授業ではあるが、教員や受講生とのつながりを感じられるように授業を工夫されていたことも理由の一つとして挙げられる。具体的には、ブレイクアウトルームの活用、授業後の振り返りの記入である。ブレイクアウトルームで実際に心理作用を体験することで受講生同士が交流できる場となっていた。振り返りについては、「先生に気づいたことを伝えたい」、「先生になら受け止めてもらえる」という気持ちから、どの受講生も自分自身で意味づけや価値づけをしているのだろうと感じられる振り返りを、字数制限を設けなくてもたくさん書いていたと聞いた。そして、振り返りは次の授業の際に、匿名でいくつか取り上げてフィードバックをし、他の受講生の感想や気づきを聞くことで、受講生はさらに学びを深めることができる。授業を受講したり、授業の振り返りをしたりすることを通して、自分自身と向き合うことができる授業構成となっている。</p> <p>心理の授業ではあるが、専攻の中の共通科目で履修制限がなくどのコースの方でも受講できるため、昨年度は受講生の半分以上が他コースであった。心理のコースでない方にもおすすめしたい授業であることも候補理由である。</p>		